

行仙宿の巡回整備

◇実施日 9月6日(土)

晴

◇参加者 梶野照雄 1名

8月30日の東大生サポートの帰り、登山口のベンチが斜めになって座れなくなっていた。逆さにして状態を見ると、鉄アングルで作った脚が平行四辺形の形になっていた。四隅をボルトで留めてあるが、トラスが入っていないので、ボルトを締め直してもまた斜めになるのは確実だ。すぐには修理できないので、アングルと工具を用意して修理に向かった。



斜めになった脚

穴を開ける

トラス取り付け

お昼前に登山口に着き、昼食を摂ってから作業を始めた。半割丸

太にアングルを留めるため深い溝が彫られているが、これがボルトを緩める障害になっている。ボルトの周りに穴を開けてスパナが入るようにした。ボルトは何とか緩んだが、この穴あけにかなり苦労した。持ってきたアルミアングルを寸法に合わせて切断、2本の脚にトラスを入れた。もう一つのベンチは、ボルト周りを彫らずに、アングルに穴を開け、アルミアングルの残りをボルトで留めてトラスを形成した。二つのベンチを修理するのに1時間強かった。ベンチの木は腐食が進んでおり、1年くらいでボルトが抜けて壊れてしまうと思う。



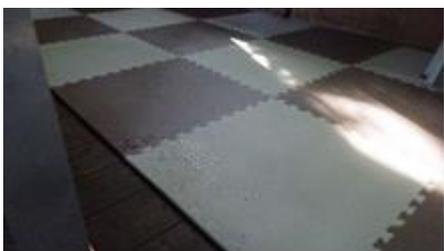
2台目も終了

完成

行仙宿着

工具を片付けて小屋に向かう。今日は比較的涼しく、小屋玄関脇の温度計は25℃を指していた。台風対策で降ろされた雨戸をあけて換気する。少し風があるので小屋内も涼しくなってきた。倉庫からチェーンソーを出して始動するかを確かめた。大きいチェーンソーは40回くらい引っ張ってみたがやはり始動しない。プラ

グを外して火花を確かめたが、火花はちゃんとでていた。プラグを付けて再び始動を試みたが、爆発の気配は無かった。燃料系に詰まりがあるのかもしれない。児嶋大先生にお願いしてみようかと思う。小さいチェーンソーは4〜5回引くと始動した。小屋南側の縦挽き途中の木を切ってみたが、ソーチェーンが減っているのでまったく切れず、枝を5〜6本落としただけで小屋に戻った。



雨戸を開ける

マットが濡れていた

小屋と管理棟周りを点検。窓を閉めるために小屋に上がると、ストープ西側のマットが少し濡れていた。上部は暗くてよくわからないが、雨漏りがあるようだ。次回、点検したい。濡れたマットをトイレットペーパーで拭き、マットをめくって床も拭いたが床は殆ど濡れていなかった。

午後4時過ぎに下山開始。いったん登山口に戻ってから、旧車庫横のレールに倒れこんだ木を処理しに向かった。直径4cm位の木だが、高い位置で折れて倒れている。折れた箇所はまだ半分ほどが繋がっ

ていて、引いても回しても外れそうにない。先端を近くの木に引っ掛けてレールに当たらないようにした。



ソーラーパネル異常なし

支障木を処理

水場（上部受水槽）

台風の接近でかなりの雨量があったようで、登山口の水場は近年にない勢いで流れていた。R425にも土砂流出の跡が複数箇所あり、明日の持経宿行が心配される。
(記：梶野)

行動タイム

11:55 補給路登山口 14:20→14:36 コマツハウス→14:45 行仙宿
16:10→16:42 補給路登山口→16:50 旧車庫→16:59 補給路登山口